

作品

スタッキングデスクのデザイン

Design of the stacking desk

金子 哲大¹⁾

Tetsuo KANEKO¹⁾

中山 貴裕²⁾

Takahiro NAKAYAMA²⁾

Abstract: "sodento" which we designed in cooperation with Nakayama Mokko is a wooden stacking desk. When the small desk are stacked, these transform themselves into "a cabinet". In this report we have recorded our design process (a process of the adjustment about the matter of much antinomy).

キーワード：デザインプロセス、机、キャビネット、二律背反

Keywords : design process, desk, cabinet, antinomy

1. はじめに

2009年度のナカヤマ木工（福岡県大川市）からの受託研究「スタッキングデスクのデザイン」でソデント（sodento）をデザインし、製品化を行なった（図1）。当該受託研究は、福岡県産業デザイン協議会の2009年度開発助成事業（公募）・中小企業デザイン開発助成にともなうデザイン業務委託であり、木工家具メーカーであるナカヤマ木工の新しい製品の開発及びデザインを目的として、木製のスタッキン

グできる小机のデザインと、完成した製品の販売上のプレゼンテーション等のコンサルティングを行なったものである。

ナカヤマ木工は木材の無垢家具・パイン家具の製作販売を行なっている小規模な個人経営のメーカーである。受注のほとんどが別注家具という状況の中、雑貨市場などの新しい販路開拓のできる大量受注可能を前提とする既製品のなデザインを要望してきた。既製品を商品に持つことによって、小売店やネット上での販売などが容易になるため



図1 ソデント写真（ナカヤマ木工工場にて）

1) 近畿大学産業理工学部建築・デザイン学科 准教授 tetsuok@fuk.kindai.ac.jp

2) ナカヤマ木工

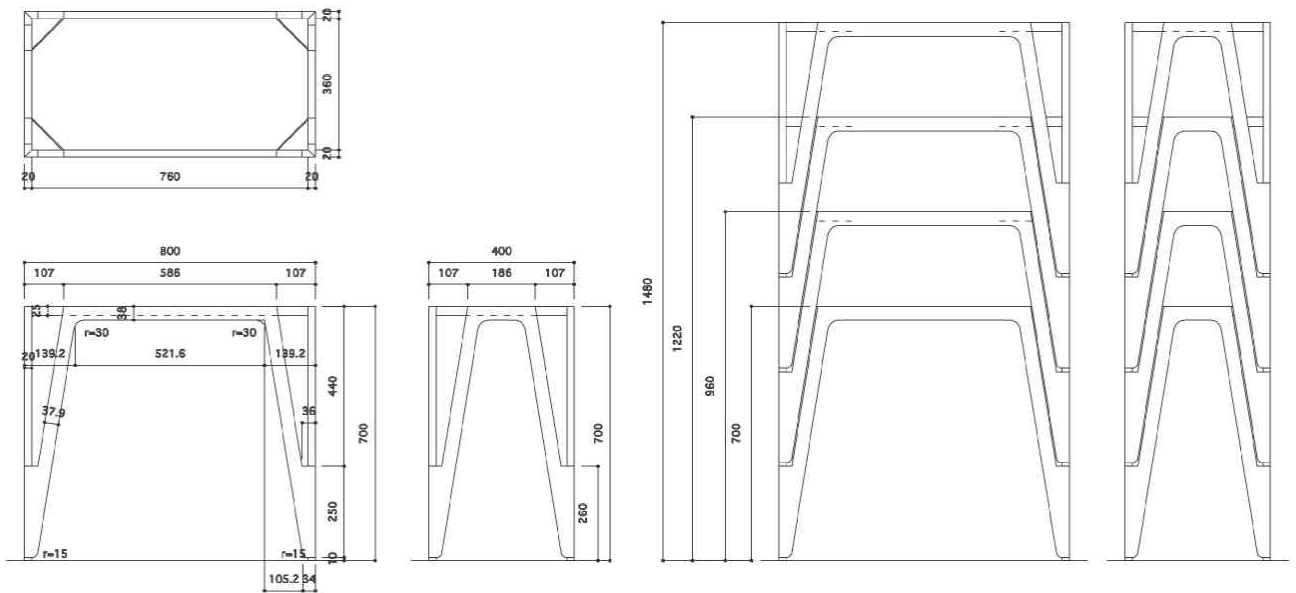


図2 上面・正面・側面図 S=1/20

である。

本稿では、デザインプロセスにおける思考の過程を論述するとともに、製品化後のプレゼンテーションとして出展した2010年度グッドデザイン賞[®]およびグッドデザインエキスポ2010の概要について報告する。

2. デザインの概要

スタッキングデスクのアイデアは、2006年よりナカヤマ木工と共同してデザインしているシリーズ、KaMoNaDESIGN[®]で2006年当時提案し試作したものの延長線上にある。前回の試作においては、素材選定に関わる重量やデザイン上の構造の問題により揺れの発生があったため発売を見合わせた経緯があり、今回のプロジェクトではデザインを根本から見直した。

2.1 デザインの契機のキーワードと着地のキーワード

「わたしの机」「みんなの机」の2つをデザインの契機のキーワードとして思考する中で「マイファーストデスク」「机は動く」という二つの着地点をイメージするキーワードが生まれた。

「わたしの机」：こどもの頃、学校の机はすべて木でできていた。入学して初めて机に座ったときの気持ち、授業中居眠りしてできた頬の赤い跡、落書き、傷など様々な机に関わる記憶が残っている。机と出会ったときの新鮮な気持

ちを思い出すような初めての机「マイファーストデスク」をイメージさせるあり方を目指した。

「みんなの机」：学校の教室では、授業のときは黒板を向いて、給食のときは寄せ合って、掃除のときは前後に移動して、思い返せばいつも机と一緒に移動していた。「机は動く」、いつのまにか大人になると忘れてしまっている子供のころの当たり前は、大人達の生活に懐かしくて新しい出来事を提供してくれる。

2.2 形態の概要

大きさは幅800mm、奥行400mm、高さ700mm、平面形の比率を2:1としているため、畳のように縦横自由に組み合わせて使用できる。素材はパインの無垢材で、オイル塗布2回、ワックス1回の仕上げである。パイン材の選択は、油分を多く含むことによる艶の出現、スタッキング時における重さや強度、節の作り出す模様の面白さを勘案して決定した。無塗装で木材の感触が手のひらに直接伝わるようにしている。脚部にはアジャスターを取り付けてあり、経年変化によるガタツキなどに対応している。各部材の接合に関しては実(さね)とダボとし、一切金物を使用していない。重さは約5kg、女性でも片手で持つことができる重さである。積み重ねれば、キャビネットに変身する(図2・図3)。



図3 キャビネットへの変身を示すドローイング (パネル: グッドデザインエキスポ2010にて展示)

2.3 デザインが達成しようとした具体的な目標

無垢材を使用した家具製作を特徴とするナカヤマ木工のいくつかの家具の中で、ソデントが位置するKaMoNa DESIGNシリーズはシンプルな造形ながら通常の家具とは違う使い方を許容するものを目指している。ソデントは、住宅から公共空間まで様々な使用状況に対応できる家具を目標とし、欲しい時にいつでも傍らにいてくれるような存在になることに心がけた。

3. 利用者・社会・文化および地球環境へ向けて

一つのデザインは様々な社会的水準と関係を持つ。直接プロダクトを使用する利用者、デザインに要求される社会的な意義や文化へ向けての発信、地球環境への配慮の4点を意識してデザインを進めた。

3.1 利用者へのデザイン

児童館や公民館など大勢が集まる場所での利用を想定した。壁際にスタックしてできたキャビネットから必要な人が自分で必要な場所へ持っていき、帰るときにはまたスタックして片付けるという使い方である。公共空間に木でできた家具を提供したいという気持ちもあった。もちろん

1人暮らしのパソコンデスク、家族が住む住宅内では配置によってダイニングから学習机にまで利用できる。

公共空間にある家具は減価償却のような経済的な論理が優先されるケースが多く、愛情を傾けて長く使用することは困難である。また、住宅内で使用される家具も安価なものを使い捨てていくという傾向がある。デザインの長寿命化は経年変化を排除することではなく、変化を受け入れることによって実現する。素材の変化、使い方の変化に対応するソデントは、どこか懐かしくて新しい森の感触を末長く提供できると考えている。

3.2 社会へのデザイン

ナカヤマ木工は個人経営ベースの小規模なメーカーである。現在の家具市場は、中国などで大量に製作し安価で販売できる大規模量販店が席卷し、国内に生産拠点を持つメーカーの窮状には救いがたいものがある。ナカヤマ木工のある大川市でも中規模以上のメーカーの打撃は計り知れない。個人経営ベースの別注を主とする小規模なメーカーも少しは被害が穏やかであるとはいえ、その先行きに不安は隠せない。新しい販路の開拓および製作プロセスの改革が必要とされている。



図4 グッドデザインエキスポ2010展示状況

ソデントは、地域の小規模なメーカーの協同を視野にいれ、製作に特別な技術や素材を必要としないデザインとした。各部材は大川市内のNC加工業者へ外注している。基本的には上面一面と側面四面の5つの平面でできた箱である。まるで小学生向けの雑誌の付録などについている紙の模型のようなものである。5つの面の部材を接着すればよい。大川市内の他の家具メーカーでも部材さえ手に入れば簡単に製品化できる。もしソデントが大量受注できたときにナカヤマ木工1社では対応できないことを逆手に取り、市内の小規模なメーカーが協力して対応することを想定した。小さなデザインが地域の活性化に寄与できる道筋だと考えている。

3.3 文化へのデザイン

住宅用、勉強用、食事用、オフィス用、結婚式用・・・家具デザインの現状を見渡せば、使用状況の差異化によるカテゴリの細分化を目にすることになる。ソデントのデザインによって、既存の細分化された家具カテゴリに一石を投じることを意図した。小さな机の持っている可能性にスタッキングの機能を援用し、机という家具のカテゴリとは無縁であった別のカテゴリへの侵犯、即ち机の

位置するカテゴリの拡張を実現することで、新規需要の掘り起こしを狙ったものである。

オフィスの会議室でソデントが使われることを願っている。会議の度にスーツを着た社員がそれぞれソデントを持ち出して寄り集まってくる。少しの面倒臭さや威厳の無さを無視すれば実現可能な光景だろう。固定化されたカテゴリに対してデザインができることは、「こうでなくてはならない」を「これでもいい」または「これはいい」に変換させ、様々な新しい生活スタイルの可能性を示すことである。

3.4 地球環境へのデザイン

自然な状態に限りなく近い無垢の木材の使用を前提としてデザインを行なった。地球環境への配慮を掲げた木材の利用に関しては様々な取り組みがあるが、なによりも森の循環を促すことが大切だろう。そのためには生活の様々なシーンに木材を埋め込んでいくこと、自然な状態の木材の魅力伝えるデザインが必要とされる。

ソデントは、高さ700mm、一段スタッキングするごとに260mmピッチで高さが増えていき、四段積み重ねると1,480mmとなる。小柄な女性でも違和感なくスタッキング

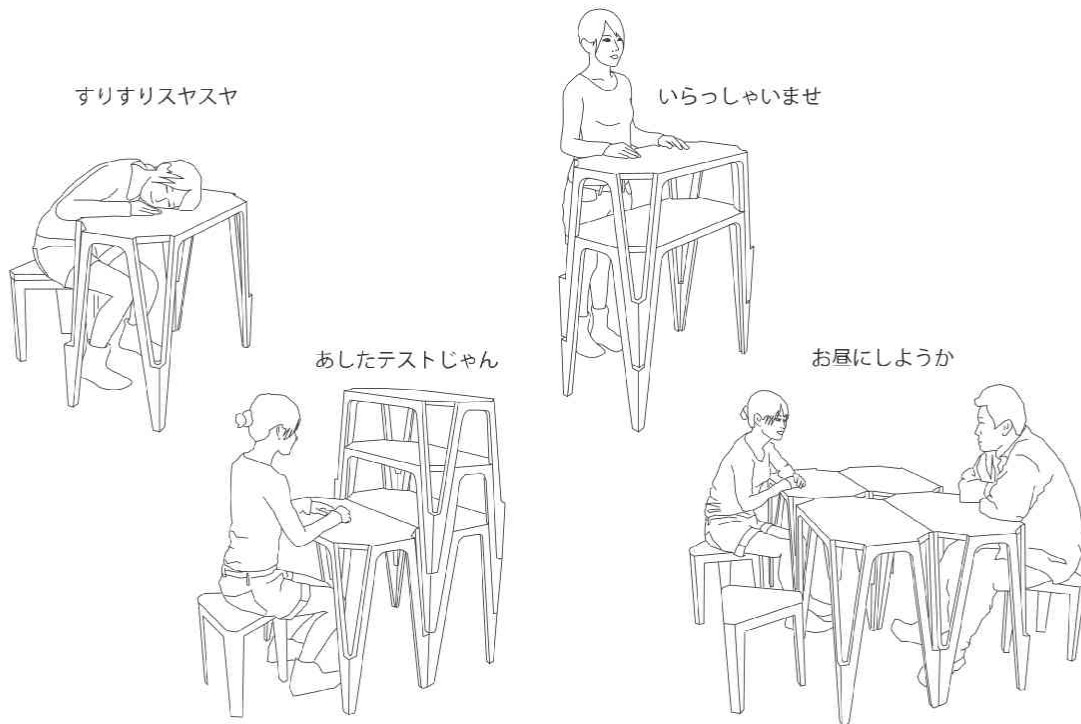


図5 組み合わせの多様さを示すドローイング

できる、しようという気持ちになれるだろうと考えて寸法を決定した。住宅内での主役である女性（主婦）に配慮して日常生活に木材を浸透させようとするのは、小さな一歩ではあるが地球環境への配慮に繋がっていくはずである。

4. プレゼンテーション

販売上のプレゼンテーションの一環³⁾として、2010年度グッドデザイン賞への応募およびグッドデザインエキスポ2010に出展した。

4.1 現物展示

グッドデザインエキスポの展示がそのままグッドデザイン賞の2次審査となるため、合計8台を製作し組み合わせの多様さを表現するようにした。4台をスタッキングしてキャビネット、2台をスタッキングしてカウンターとしての使用、2台を向き合わせて配置したところでは簡易なツールを用意し、来場者にゆっくりとソデントを体験してもらえるようにした。(図4)

4.2 パネル展示

作品説明パネルとしてA1パネル2枚を展示した。製品の細かい仕様ではなく、ソデントを使った生活シーンを物語るドローイングを中心にプレゼンテーションを行なった。一目で理解できるように、ドローイングにはキャッチーな

台詞を記載した。(図3・図5)

4.3 模型展示

一般来場者に実際にスタッキングしてもらいたいが、見るだけの人が多いのが現実である。そこで部材構成を示す簡易な模型を展示し、組み合わせの多様さを気軽に楽しんでもらえるようにした。さらに模型の展開図をそのまま来場者へ無料で配布するA4大のチラシにレイアウトし、デザインへの理解を深めることを狙った。この試みは成功したようで、3日間の展示期間中に用意していたチラシ500枚がすべてなくなった。また展示していた模型の配置が常に変化していたことは、来場者が気軽に楽しんだことを物語っている。(図6・図7)

5. 終わりに

ソデント (sodento) という名前は送電塔に由来する。ナカヤマ木工に出向くとき、フロントガラスの前方に広がる佐賀平野に林立する送電塔にヒントを得た。送電塔の間を何本もの送電線が層を成して軽やかに行き来している光景から、机をスタッキングすることを思いついた。送電塔が電線をつないで電気を送り届けるように、作業する人々の気持ちをつなぐことを名前に託している。スタッキングした姿の側面に送電塔の面影を残した。

ソデントはほんの小さな机であるが、そのデザインプロ



図6 展示した模型の様子

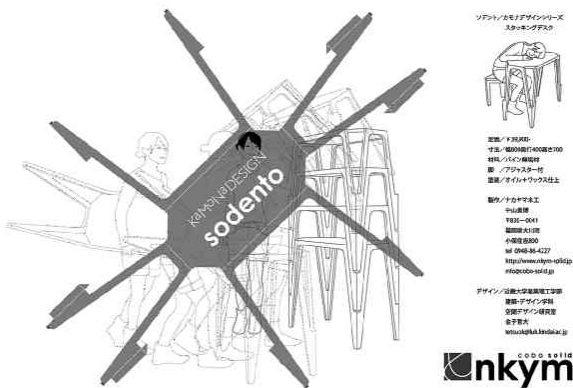


図7 模型展開図がある配布したA4チラシ

セスにはデザインの可能性について多くのが含まれている。デザインプロセスにおいて、デザインの本質が多くの二律背反的、言い換えれば「多律背反」的な事項の調整にあることを改めて強く認識した。この件に関しては別稿で論述する予定である。

製品のプレゼンテーション等のコンサルティング業務において、使用状況の写真撮影やプレゼンテーションパネルの作成に多大な協力を得た建築・デザイン学科3年の田中葉更さんに感謝する。

注)

- 1) 2010年度グッドデザイン賞
2010年度グッドデザイン賞を獲得し、審査公開コメントでは、『机は動くことを前提にデザインされた「スタッキングテーブル」。ひとつでは勉強をして、寄り集まっては食事をし、重ねて寄せては掃除をする。重さ5キロは女性でも片手で持て、スタッキングも可能であり、重ねると棚として利用できるとは驚きだ。素材はパインの無垢、デザインも素材を活かしており、好感が持てる。どこにも抜けが無い素晴らしいプロダクトである。』との評価を受けている。公式サイト<http://www.g-mark.org/award/detail.html?id=36349> 参照。
- 2) KaMoNaDESIGN
2007年より発売しているナカヤマ木工の家具のシリーズの1つ。(http://www.nkym-solid.jp/)。詳細については、金子哲大、"ちらかしのデザイン"、近畿大学産業理工学部研究報告、vol.06、pp.33-38、2007参照。
- 3) プレゼンテーションの一環
グッドデザイン賞の他に2009年末の福岡産業デザイン賞では優秀賞(ライフスタイル賞)を受賞。また、スタッキングするための脚部の造形が特徴的であることから意匠登録を現在申請中である。